



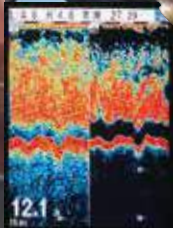
★レンタルタックル&船宿仕掛けてヒラメ初挑戦の方が3.5キロを上げた



★当日最大4キロジヤスト。イワシを食って背の盛り上がった個体はまさに極上の寒ヒラメ



◎富久丸の席取りは、乗船場に設置されたボードの札を若い番号から順に一人1枚取り、船長が到着してから札順で釣り座を決めるシステム



◀魚探にイワシの反応がビッシリ



▲船宿仕掛けはノーマルとライト用の2種。オモリはノーマルが80号、ライトが40~60号

# 外房大原港出船 外房のイワシパターンは ヒラメも大型狙いの好期

撮影●椎名義徳



▲ドラグを締め気味にしてしっかり合わせたら竿で引きをいなしつつ、大型を慎重に浮かせよう



▲2~3キロ級を5枚釣り竿頭  
▶身に厚みがあり見た目より重量がある

◀釣れたヒラメは船長が神経絞めにしてくれる



▲釣り場は岩船~大原沖の水深5~15メートル前後

イワシの群れに着いたヒラメはサイズがよく食いも活発。大原港の富久丸での取材日も2キロ級中心に最大4キロを交えて1~5枚の好成績だった。イワシのサイズが大きくなる2月はさらなる大ヒラメも期待できるといふから楽しみだ。(詳細は52ページ参照)

イワシパターンはマダイだけじゃない！外房大原港出船ではイワシの群れを追って来遊する「渡り」と呼ばれる大型ヒラメ狙いが盛り上がった。当地では例年なら2月ごろになることが多いイワシの回遊が、今年は1月中旬から始まった。居着きの魚に比べ、



◎2~3キロ級は珍しいくない



◎イワシの群れに着くヒラメは良型ぞろい



◎外房大原港・富久丸 船長 健太船長